

◇2017年度実施の海外教育旅行の実態とまとめ（中・高）〈抜粋〉◇

この調査は、2017（平成 29）年度に実施された中学校・高等学校の教育旅行に関するものである。

なお、調査は全国の国立・公立・私立等の中学校・高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	86	13,050	2,098	15,234
抽出校数	86	3,963	2,008	6,047
回答校数	28	1,476	544	2,050
回答率%	32.6%	37.4%	27.6%	34.1%

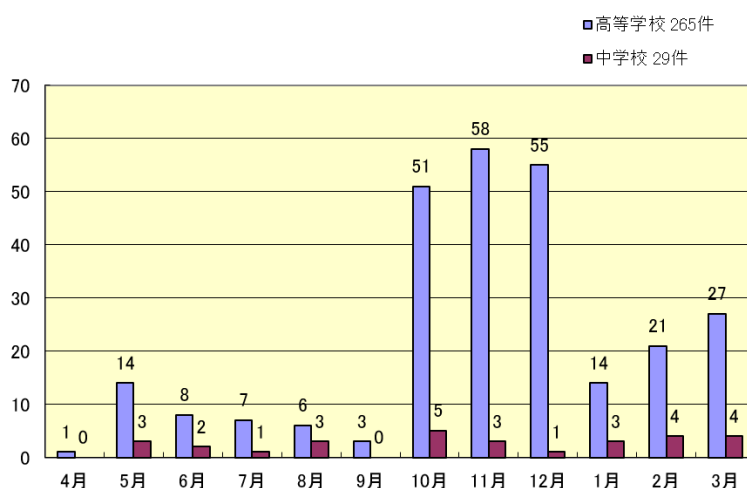
※回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

調査項目は次の通りである。

- (1) 実施学年 (2) 出発月 (3) 宿泊日数 (4) 行事種別 (5) 訪問国名・地域名
- (6) 宿泊都市 (7) 訪問都市 (8) ～ (10) 参加生徒数・引率教員数・合計人数
- (11) 参加形態 (12) 生徒一人当たり旅行費用 (13) 学校間交流の具体的内容
- (14) 海外教育旅行実施に当たっての課題や問題点

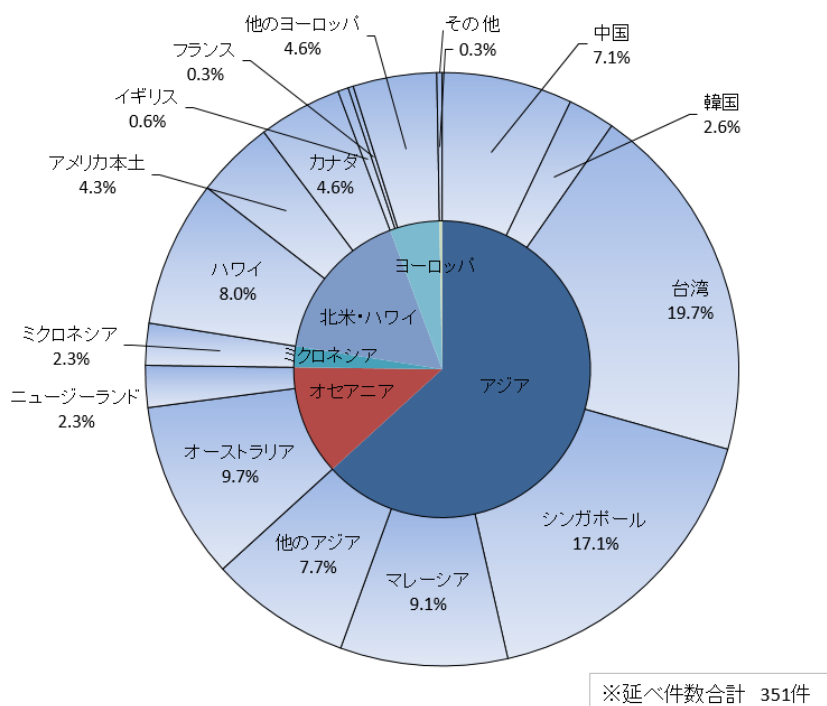
ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細については「教育旅行年報データブック 2018」（発売中）をご覧ください。

1. 海外修学旅行の実施月（件数）



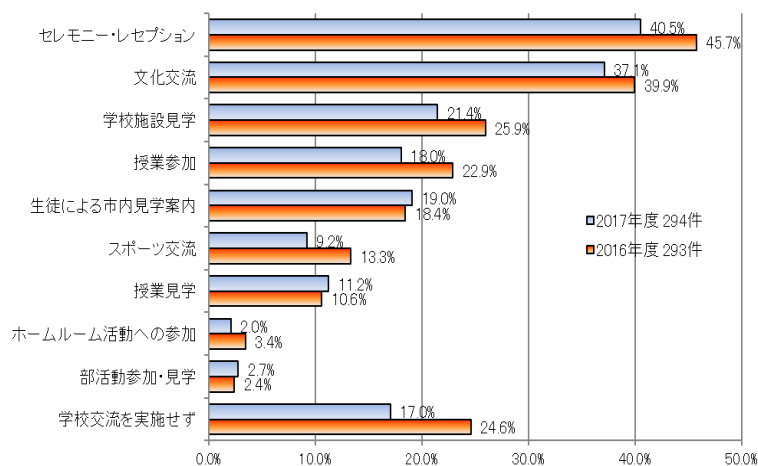
実施のほとんどが私立校である中学校は、時期が分散している。高等学校では件数ベースの 61.9%が 10月～12月での実施。特に公立校はこの時期への集中傾向が強い。3学期の実施も比較的多く、高等学校では 2 学期（全件数の 63.0%）、3 学期（同 23.3%）での実施が大勢である。

2. 海外修学旅行の訪問国・地域別割合（件数比）



エリア別件数シェアでは、前年に比してアジア計のシェアが前年の45.0%から本年は63.2%拡大し、オセアニアとミクロネシアのシェアが低下する結果となった。

3. 海外修学旅行の学校間交流内容（複数回答）



※海外修学旅行の実施件数を分母とした比率

海外修学旅行実施件数を分母とした比率で、「セレモニー・レセプション」（前年度45.7%→今年度40.5%）や「文化交流」（前年度39.9%→今年度37.1%）と変動はあるが、前年と比べた場合に全体として大きな変化はないといえる。なお、「学

校交流を実施せず」は、前年度年報では「特になし」という記載だったもので、回答として「学校交流は実施していない」という回答があった件数を集計したものである。今年度比率が低下しているが、修学旅行を実施したという回答件数の内、学校交流内容欄が無回答だったものが前年度は293件40件、本年度は294件中69件あり、その点を考えると、この数字の変化だけで交流の有無の傾向を判断するのは難しい。

4. 修学旅行以外の海外教育旅行について

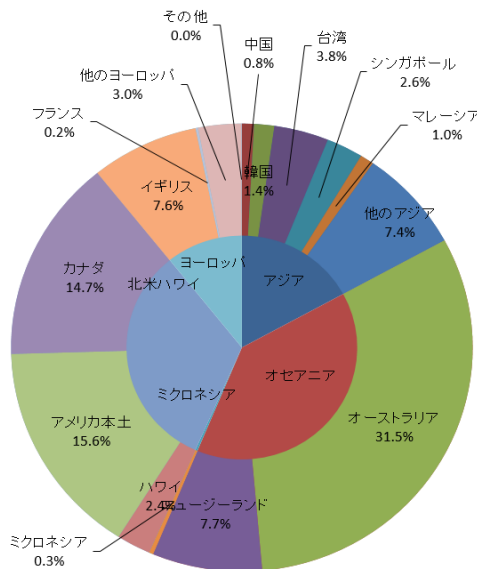
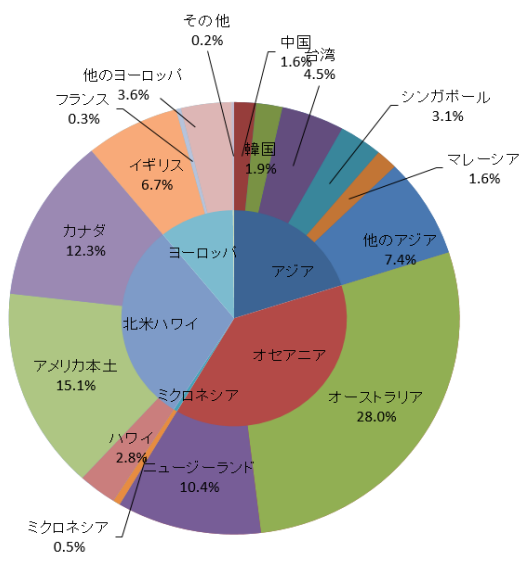
修学旅行以外の海外教育旅行の

訪問国・地域別割合（延べ件数比）（計 578 件）

同左（延べ人数比）

（計 14,086 人）

※1 回の旅行で訪問国・地域が複数になる場合は、それぞれに件数、人数をカウントした。



海外語学研修旅行の主な訪問都市

※訪問都市：宿泊都市と見学都市の合計

順位	順位			都市	国・地域	今回 件数
	今回	前回	前々回			
1	1	2	ブリスベン	オーストラリア	34	
2	2	3	バンクーバー	カナダ	29	
	4	4	オークランド	ニュージーランド	29	
4	3	1	シドニー	オーストラリア	25	
5	—	—	ボストン	アメリカ	17	
6	5	5	ロンドン	イギリス	14	
	8	—	メルボルン	オーストラリア	14	
8	8	6	ビクトリア	カナダ	13	
	—	8	ケアンズ	オーストラリア	13	
10	6	8	ゴールドコースト	オーストラリア	12	
11	7	—	セブ	フィリピン	10	
	—	—	ニューヨーク	アメリカ	10	

修学旅行以外の海外教育旅行計 560 件中 301 件 (53.8%) が語学研修旅行で、そのほとんどすべてが英語研修である。その他の区分の旅行も英語学習を兼ねる場合が多いため、英語圏志向は強い。延べ人数比では、オーストラリアが 31.5% と本年も一番多く、アメリカ本土

(15.6%)、カナダ (14.7%)、イギリス (7.6%)、ニュージーランド (7.7%)、と続く。「他のアジア」は件数比では前年より若干減少したが (前年 8.7% → 当年 7.4%) 人数比では (5.6% → 7.4%) と伸びており、件数 43 件中 20 件がフィリピンである。

語学研修旅行における訪問都市では、顔ぶれは例年と大きく変わらないが、昨年ランキングに入らなかったアメリカ本土の都市が、5 位にボストン (17 件)、11 位ニューヨーク (10 件) と入った。